



美々鹿肉缶詰工場展

～よみがえるまぼろしの工場～

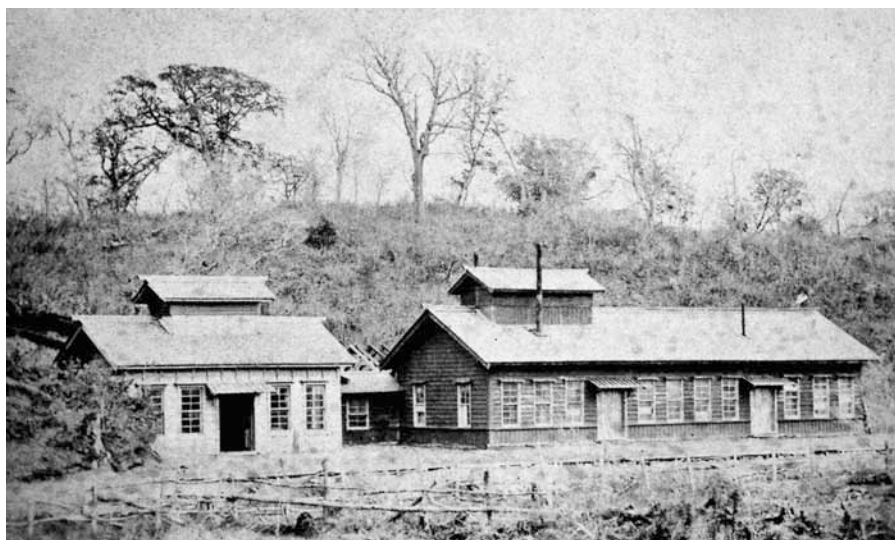
所詳美術博物館 ☎(35)2550



今から140年前、とてもユニークな産業が苫小牧で起こりました。それは、野生のエゾシカ肉を原料にした缶詰作り！

お雇い外国人から教わった技術を基に、海外進出を目指した一大プロジェクトだったのですが…わずか数年で突然終わってしまいます。

本展では、謎に包まれた鹿肉缶詰工場の歴史をご紹介します。



美々の鹿肉罐詰製造所（明治12年頃）
北海道大学附属図書館北方資料室蔵 ▶

- ☎3月3日(日)まで 9時30分～17時(入場＝16時30分まで)
 ※休館日＝月曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)、12月29日(土)～1月3日(休)
 ♪一般300(240)円、高大生200(140)円、中学生以下無料
 ※()内は10人以上の料金です ※免除規定あり
 ※年間観覧券でもご覧いただけます
 ※特集展示、中庭展示、常設展示も観覧できます



ポイント

1

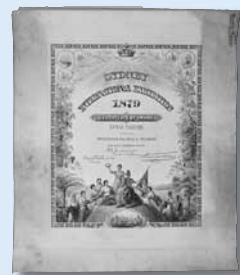
美々鹿肉缶詰工場について

明治時代の初めに北海道の行政・開拓を担った開拓使は、地場産業の育成と近代化を推し進めました。そのうちのひとつが缶詰の製造で、明治10(1877)年、開拓使石狩缶詰所(日本初の缶詰工場)の開業を皮切りに、苫小牧・厚岸・別海・紗那に缶詰工場が設置されました。苫小牧は、エゾシカが数多く生息する場所であったため、鹿肉を利用した缶詰工場が植苗村美々(現：苫小牧市字美沢)に造られました。

美々の鹿肉缶詰工場は明治11(1878)年に操業を開始し、その年の生産数は7万缶以上に上りました。缶詰は在留外国人や各国領事によって品評され、国内外で開催される博覧会では賞を獲得することもありました。

出だしは順調だった缶詰工場ですが、翌12年から13年の冬の大雪と、人間による乱獲などでエゾシカの数激減したことにより、鹿肉缶詰の生産は2年ほどで中止を余儀なくされます。

工場を経営していた開拓使も廃止となり、明治15(1882)年に工場は閉鎖、同17(1884)年に廃止が正式決定しました。その後、工場は解体され、民間に払い下げられました。



▲シドニー万国博覧会賞状(明治12年)北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園蔵